

平成 30 年度 第 1 回利用促進・コミュニティ交通部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：平成 30 年 8 月 28 日（火）午後 2 時～午後 3 時 30 分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟 2 階 予算決算委員会室

II 主な内容

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 議事

① コミュニティ交通について

（事務局）

- ・「資料 1：コミュニティ交通について」説明

（部会長）

- ・ゆうゆうバスについては、コーヒー無料サービス券の配布や、バス停新設等の取組がされており、運行継続基準をクリアしていることがわかった。空白地域対応等コミュニティ交通についても、いろいろな取組をされていることがわかった。
- ・本部会において、本年度から利用促進について考えていかなければいけない。ゆうゆうバス、乗合タクシーの利用促進に関する取組をもう少し詳しく教えていただきたい。

（事務局）

- ・ゆうゆうバスについては、自治会等での周知広報は継続して行っているところ。自治会の集会時に、本日参考で配布しているパンフレットを配布していただいたり、内容を説明していただいたりしている。
- ・小学校の体験学習では、ゆうゆうバスについて、運行内容や乗り方について教えている。
- ・すいかの里植木のコーヒー無料サービス券の配布については、今回の延伸に伴って、新しい取組として実施したところ。車内で利用者に券を配布し、すいかの里でコーヒーを飲んでいただけるようなサービスを実施した。
- ・乗合タクシーの利用促進については、路線ごとに利用状況にバラつきがある。運行協議会によって、地域での利用状況確認や意見交換などの回数に差異があるので、利用状況をお知らせする機会を増やすこともひとつの方法と考えている。他の路線

の利用状況を知っていただくのも参考になると思う。今年はより効果的な取組をや
っていききたい。

(部会長)

・コミュニティ交通について、芳野さくらバスの取組を原口委員から教えていただき
たい。

(委員)

・地域の状況に応じた運行ができていると考える。コミュニティ交通の導入前は、
路線バスとして普通のバスが運行されていて、行政からの補助金も多かった。コミ
ュニティ交通の導入後、ジャンボタクシーで芳野さくらバスの運行を開始した。そ
の後も利用者の統計をとり、利用状況にあわせて、今春から車両を普通のタクシー
に変更し、利用の少ない日曜日の運行を廃止した。運行事業者の努力もあって経費
を削減したおかげで、現在も運行できている。

(部会長)

・いろんな工夫をされていることがわかった。
・ゆうゆうバスについては、来年度の運行継続基準をクリアしていることから、継
続して運行し、公共交通空白地域対応等コミュニティ交通については、今後も利用
促進に取り組んでいく、という方針でよろしいか。

(委員)

異議なし

② コミュニティ交通について

(部会長)

・続いて、利用促進について事務局からの説明をお願いしたい。

(事務局)

・「資料 2 : 利用促進について」説明

(部会長)

・利用促進に関するさまざまな取組の紹介があった。各委員の皆様からアイディア
をいただきたい。最初に、委員より利用促進の取組について話を伺いたい。

(委員)

- ・まず現状について、40年前から輸送人員が半分に減少しており、その原因は、ローカル線から撤退せざるを得ない地域の状況にある。沿線に御船高校、矢部高校、甲佐高校があるが、過疎化により生徒数が激減しており、通学客も少なくなった。
- ・利用促進の取り組み方は手探り。現時点では、小学生向けの出前講座や、公共交通キャンペーン、バスの日イベント、パークアンドライドをやっている。パークアンドライドについては効果が見られる。女性のドライバーは市街中心部までの運転を避けるためパークアンドライドを利用されており、ご家族も安心されている。
- ・快適性の向上ということで、低床バスを導入したり、九州産交バスでは乗務員がアロハシャツを着用したり、熊本バスでも個人対応だが、ひまわりを飾ったりなど、利用者に気持ちよく乗っていただく取組をしている。しかしこういった取組も利用者増への即効性はないと感じる。来年度の取組であるバスロケは効果があると期待している。バスロケと併せ、熊本市と協働で取り組むコンビニと連携した待合環境の改善をおこなうことにより、バスを快適に待っていただける環境を作ることができる。
- ・出前講座は小学3年生を対象にしているが、今のお客様を増やすためには、大人向けの講座も必要。大人がバス・電車に乗るということを身近に考えて体験する機会や場所をわれわれが提供していくことが必要。
- ・コンビニと連携した利用促進の取組についてだが、実は昔に返りつつあるのではないかと考える。昔は商店前が地域の集まる場所であり、バス停だった。現在はそれだけ、コンビニが普及したといえる。ただし、バスの停車時に商業施設とバス停の間を利用者が行き来するとなると、駐車場内の車との接触トラブル等が起こる可能性があるため、車の利用者にも理解と協力が必要と感じる。

(部会長)

- ・バスロケは革新的だと思う。スマホを持っている人が多いため、簡単に検索できるなら、それをうまく活かせるような仕組みを考えていく必要がある。

(委員)

- ・出張先でどのバスに乗ればいいのかわからない、案内人もいないといった経験がある。そのためわかりやすさが必要。熊本駅の案内に全バス路線の地図があれば、わかりやすくなると思った。バスロケについて、どういった機能がついているかお尋ねしたい。

(九州産交バス)

- ・バスロケーションシステムは H31 年春の導入開始を目指し、事業者合同で検討を重ねている。県下すべてのバスに位置情報が認識できる装置を設置し、利用者はスマホでバスの位置情報をリアルタイムで確認できる機能が備わっている。主要バス停においては、設置している停留所モニターで、バスの運行情報をリアルタイムで提供する。
- ・このシステムのダイヤや運行状況を一括で、外部提供するため、県外からのお客様に対しては、行き先をグーグルで検索していただくと、乗り換え案内や、運行情報を提供できる。
- ・多言語化対応のため、アプリでのバス停を漢字表記だけでなく、アルファベット表記も可能とすることでバス停の名称をわかりやすく表示する。
- ・運行情報を提供することで、リアルタイムで遅延状況の確認ができ、また、情報を蓄積することで、適切な運行時間の調整が可能となり、次のダイヤ改正に役立てることができる。

(部会長)

- ・併せてご提供いただいた参考資料 1 ページについて説明いただきたい。

(九州産交バス)

- ・「参考資料：利用促進に関する取り組み（P1）」を説明

(部会長)

- ・あり方検討会はすばらしい取組だと思う。いろんな課題に対し、具体的に検討をされている。
- ・系統名、バス路線やバス停名を海外の方にもわかりやすく表記する取組は必要。

(委員)

- ・乗り換え方法がスマホで検索でき、わかりやすくなると思う。御幸笛田から川尻を検索した時、横のつながりがなければ、いったん交通センターを経由する乗り換え案内が表示される可能性があるのではないか。運行本数、行き先、つながりが課題として残ってくる。
- ・既存のバスルートは熊本市の道路事情により、熊本城を中心に放射線状に伸びている。横への移動が難しいため、そこをいかにカバーするのが課題。今までは、区役所に行くためのコミュニティバスもあったが、横をつなぐようなバスや、ある程度利用者が行きたいところに行けるようなルートを考えるべき。コミュニティバ

スを廃止したときのアンケートでは、バス停までの距離が遠いというような意見があった。マイクロバスでも小さい道路に入らなかった実情があったため、10人乗りくらいのバスを、病院、郵便局、銀行、既存のバス停、出張所を回るようなルートにすることで移動の幅が広がるのではないかと思う。そういうことができれば既存のバスの利用も増えるのではないか。

・ただ、バスの運転手が不足しているという現状から、9人乗りでタクシーの免許で運行できる車両での路線を開設できるか、行政がお金をだせるかといった課題があるため、そのことについて今後議論できれば良いと思う。利用者が増え、バス会社が儲かり、運転士の給与がアップすることで、運転士が増えてくるような回転になればと考えている。

(事務局)

・本部会は利用促進について幅広く意見を伺う場である。バス網の充実は、究極のサービス水準の向上であり、利用促進に大きく寄与するものと思う。一方でバスの乗務員が不足している状況下にあって、どこまで乗務員をまわせるのかという課題があると私自身も思っている。本日いただいたご意見につきましては、短期ですぐにできるもの、費用面などいろんな課題があるもの等に整理できるため、幅広いご意見をいただければ、次回に向けて、中期的にできるもの、長期的にできるもの、といった整理を事務局でしていきたい。

(委員)

・私はもっぱら市電を利用する。バスは複雑に思えてなかなか乗る機会がない。今日、改めていろんな取組を伺って、そういった取組の積み上げで、利用者を獲得しているということを勉強した。

・海外の事例だが、フィンランドではサウナ風呂のデザインをしたバスが走っていて、地域のアピールにもなっていた。市電のCOCOROなど、特別なデザインの車両に乗ると、得した気分になる。バスには、特別なデザインのものはあるのか。

(熊本電鉄)

・現在、そういった特殊なバスの運行はしていない。熊本のバス事業者は、ほとんどがバスを新車で買えず、中古車を購入していることも、要因のひとつと考えている。以前、当社では鉄道の路線を菊池から御代志までに短縮したとき、菊池の方々への貢献として、二階建てのバスを菊池から熊本市内まで5年程運行していた。

(委員)

・バスそのものが変わっていると皆乗りたくなる。塗装の手間だけだったら、路線

ごとに肥後熊本の武将を選んで走らせ、加藤清正号のようなバスをつくり、そのバスに乗れば、シールがもらえて、シールが貯まればもっと面白いことがある、といったいかにも子どもが乗ってきそうな工夫があると、楽しめていいのではないか。個人的には、昔のボンネットバスを時折運行させたら、みんなの目を引き、乗ってみたいと思う人が出てくるのではないかと考えている。車両そのものがみんなの興味を引くようになったら、それを目当てに利用する人が出てくるのではないかと思う。ロンドンには屋根がオープンになるバスがある。ドイツは3連結のバスが走っている。道路事情もあるが、実にいろんな面白い形のバスがある。

(部会長)

- ・今のような自由な意見は非常に大事である。最初から実現可能性を重視しすぎると、よい意見もでてこない。
- ・バスロケについて、使い方の講習会のようなものを、公民館の利用者向けに行ってはどうか。新しい仕組みを取り入れるにあたって、講習会を行うなど、新しい仕組みをさらに効果的にするための付加的な取組が必要となる。

(熊本電鉄)

- ・「参考資料：利用促進に向けての取り組み（P2～P3）」を説明

(委員)

- ・市電には1日乗車券があるが、バスにはあるのか。

(熊本電鉄)

- ・1日乗車券には、市電のみのものと、市電バス共通のものがある。

(委員)

- ・団体の外国人観光客はほとんど1日乗車券を利用しており、ラグビーやハンドボールを控え、今後も需要は拡大とされると思われる。券面のデザインなど、プレミアをつけて、もっと使いたくなるような取り組みも大事ではないか。

(部会長)

- ・ちょっとしたプレミアをつけるなどの工夫は大切だと思う。沿線住民へのポスティング等、先進的に取り組まれているが、実施されてわかったことや、他の事業者と共有したほうが良いことがあれば教えていただきたい。

(熊本電鉄)

- ・ポスティングの際にお客様の意見を聞く機会があったが、意見は多種多様である。どこにスポットを当てて取り組むかの判断は非常に難しい。アンケートの集計結果は、熊本都市圏で実施されたパーソントリップ調査結果と似通った傾向だった。
- ・バスというのは目的ではなく、手段だと思う。待合環境の改善のように、バスを利用して目的を快適に達成できるような仕組みが必要。また、公共交通機関で商業施設を訪れた方の料金を、商業施設のほうで免除するといったサービスなど、総合的に熊本都市圏の公共交通を維持向上させていくことを考えていかなければならないと思っている。

(都市バス)

・「参考資料：利用促進に関するこれまでの取り組み（P4）」説明

また、都市バスは、交通センターを通らない環状線を、熊本駅を中心に運行している。熊本駅が再開発されることによって、熊本駅自体が目的地になりえるため、市内にお住まいの方を、駅に直接お届けできる路線を今後も開発できると思っている。

(部会長)

- ・熊本駅を目的とした新たな取り組みは重要だ。また、キッズパスのような取り組みも素晴らしいと思う。他の委員からも利用促進などに関してご意見をいただきたい。

(委員)

- ・バスと同じようにタクシー協会も乗務員が大変少なくなっている。車両の減車も実施しているが、どうしたら乗務員が確保できるかに取り組んでいるところである。

(委員)

- ・桜木校区でコミュニティバスが運行されていたがなくなった。他にも、タクシーでの買い物支援サービスが行われていたが、震災をきっかけになくなってしまった。新しい取り組みは、最初は広まるがだんだん薄れていって、取り組みを知らない人がでてくるのが残念。地域包括支援センターとして、地域の方々にしっかり情報を広めていくことが必要と思った。本日紹介いただいたような各社の取り組みや問題等を広くみんなでも共有化していくことが大事だと考える。

(委員)

- ・本校生徒のうち、バスの利用者は一割程度。電鉄から紹介されたとおり、入学式等でチラシの配布等を行っている。公共交通機関をできるだけ利用してもらえるように、自習室の利用時間を電車やバスの時刻に合わせて、時刻表を掲示するなど、学校とし

てもできることがあると思った。

- ・一方で、交通安全指導をおこなっているが、生徒の自転車事故が減らず増えつづけている。交通安全指導を充実させるとともに、公共交通の利用が高まると、交通安全対策にもつながると思った。

(委員)

- ・路線バスは、地域住民の利便性を重視して運行されているが、赤字になっている路線も多い。一方、貸切バスについては、近年東アジアからのクルーズ船客の利用が多いと聞くが、貸切バスの割り振りは市の観光政策部門で行っているのか。

(委員)

- ・クルーズ船対応の貸切バスはほとんど福岡から来ていて、その多くは中国系の会社である。また、突然のキャンセルなどもあり、商取引として難しい面もある。できれば地元の貸切バス会社が担ったほうがいいが、現実には難しい。

(委員)

- ・熊本の経済にはプラスになるかと思う。せっかく熊本に来るので、熊本で宿泊していただいて、滞在時間を増やすなど、港との取り組みも必要と考える。

(部会長)

- ・コンビニと連携した取り組みはいいと思う。さらにうまく活かすために、コンビニのレシートをバスで見せれば運賃が割引きになるなど、新しいアイデアを考えていくことができると思うので、検討していただきたい。

- ・いろんな視点から意見をいただいたので、次回の部会に向けて事務局で整理していただきたい。

(事務局)

- ・本日はありがとうございました。利用促進についていただいた意見については次回に向けて整理していきたい。次回は12月を予定している。

(部会長)

- ・本日の議事を終了する。